

## 16. 日本経営教育学会創立 30 周年記念号編集記

日本経営教育学会は本年 6 月に創立 30 周年を迎えます。学会創立 30 周年は、本学会にとって一つの大きな記念すべき節目の年であります。会員の皆様それぞれにおかれましても、お一人おひとり、さまざまな想いをもって迎えられることでしょうか。私事で恐縮ですが、1979 年といえば助手から専任講師になり、ようやく研究教育者としての第一歩を踏み出した時であり、必ずしも記憶が定かでないところもありますが、1979 年 12 月 11 日(火)と 12 日(水)に丸の内の日本工業倶楽部で開催された、あの会場全体が学会創設の進取の気概に満ち、希望に満ち溢れ、ほとぼしる熱気に圧倒されていた本学会設立記念式典と、第 1 回全国研究大会への参加は、今でも誠に感慨深く鮮明に記憶しております。

本学会の創立 30 周年というこの記念すべき時に、機関誌委員会として何をなすべきかと熟慮を重ねた結果、昨夏、『経営教育研究』第 12 巻第 2 号を学会創立 30 周年記念号とすることについて、常任理事会の快諾を得ました。しかし、その作業に取り掛かるや否や、本学会の設立から今日に至るまでには、学会内外の余りにもそうそうたる重鎮の方々が、文字通り精魂を込めて参画されて来られたことを知るにつれ、本学会創立 30 周年記念号の企画は一大事業であることを痛感するに至り、とても一機関誌委員会の手には負えないと悟りました。そこで急遽機関誌委員会自ら、学会創立 30 周年「記念号」というよりはむしろ「記録号」とでも形容せざるを得ないような様態への変更を余儀なくされた次第です。

学会創立 30 周年「記録号」と限定することにはなりましたが、それでも本学会の 30 年間における活動の僅かな断面しか記録することができないことを痛感いたします。ひとことで「学会創立 30 年」といっても、余りにも多くの学界・実務界の第一線で活躍されておられる「経営学徒」の、最高の知性と真摯な情念が惜しみなく注入され続けてきた結果、今日を迎えているわけであります。59 回に及ぶ毎回の全国研究大会はいうまでもなく、数百回に及ぶ部会の一回一回も例外なく、沢山の経営学徒の全身全霊をかけた、さまざまなお働きの賜物によって実現してきたのであります。そうした活動を掲載することができなかったことをお詫び申し上げますとともに、本学会におけるすべての活動の一つひとつを覚えて心から感謝いたします。

学会創立 30 周年記念号発刊の意義は、第一義的には本学会の確かな成長の歩みを心静かに顧みることにありますが、単なる懐古や郷愁に終始してはならないと思います。本記念号の発刊が、日本経営教育学会が過去から現在に至る発展を継承し、さらなる広大な未来へと、大海原を力強く進んでいくための、ささやかながらも一つの大きな原動力になることができればと、心から願うものであります。

(2009 年 5 月 機関誌委員長 森川信男)